

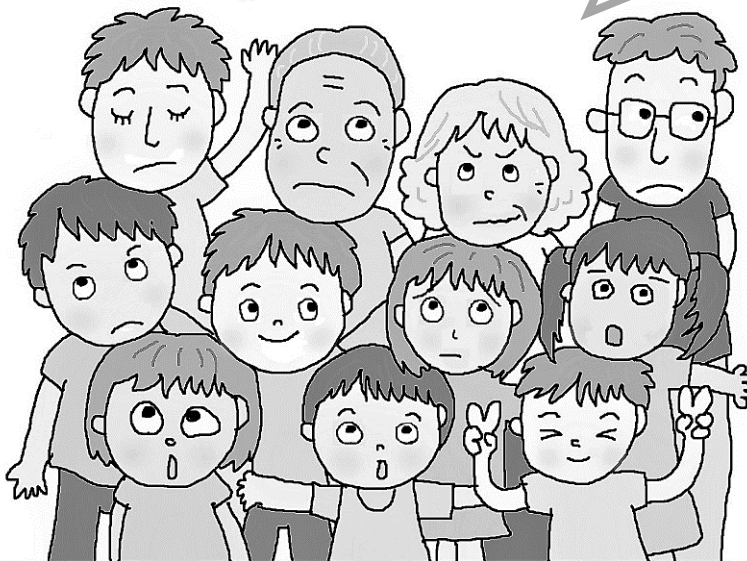
あるある 加計学園問題



加計学園への
巨額の補助金
市民の財政負担は？

市民の宝・野間馬
(文化財)の学生
実習はダメです！

危険な施設 BSL 3に
隣接する断層！
市民の命・健康は
大丈夫なの？



市民への説明は
不十分です

安倍首相による国政私物化疑惑

Q 1 獣医学部新設で、「加計ありき」と言われます。

それは、どのような意味ですか？

A 新設の背後に安倍首相と加計学園理事長の私的関係！

今治市は加計学園とペアを組み愛媛県と共同で、小泉政権で始まった構造改革特区での獣医学部新設を計15回提案してきたと説明しています(2007年11月～2014年11月)。しかしその提案は拒み続けられました。

ところが、安倍政権下の国家戦略特区諮問会議(安倍首相が議長・最終決裁権者)で約50年も認められてこなかった獣医学部新設を地域限定の規制を緩和し、1校認めるとの特例措置を決定(告示)し、新設地が今治市に絞り込まれ(2017年1月4日)、加計学園が事業者に決定されました(1月12日)。

この「加計ありき」としか思われぬ一連の決定の背後に、安倍首相と加計学園理事長(加計孝太郎)の「特別な関係」(腹心の友・家族ぐるみの付き合い)があるとの疑惑が起り、国会審議などでそのことが追及されました。

Q 2 前川前文科次官は、この決定(加計ありき)に対して、「行政が歪められた」と述べています。それは、どのような意味ですか？

A 「官邸の最高レベル」の内部文書存在と証言！

前川喜平前文部科学事務次官は、次官退任後、「総理のご意向」「官邸の最高レベルが言っている」などと記した文科省の内部文書が、確かに省内で作成されたものであると証言。医師や獣医師を養成する学部を設置申請を、原則として認めない文科省の規制に穴を開けた決定の背後に、安倍首相と加計学園理事長の私的な関係への「忖度(そんたく)」があり、それによって「行政が歪められた」と述べています。

つまり、安倍首相の「国政私物化」を示しています。



Q3 加計学園は獣医学部新設の「4条件」を満たしていないと言われます。それは本当ですか？

獣医学部新設の「4条件」とは

安倍内閣の石破地方創生相・国家戦略特区担当(当時)は、獣医学部新設の条件として、①既存の獣医師養成でない構想が具体化、②新たな分野のニーズがある、③既存の大学では対応困難、④獣医師の需給バランスに悪影響を与えない、との「4条件」を示し、閣議決定されました。したがって、「4条件」を満たすことが新設の条件となります。

A 文科省 審査委員に「4条件を議論する場でない」と説明！

東京新聞(2017年12月8日)は、「文科省側から会議の場で、『この場は四条件を満たすかどうかを議論する場ではない』と繰り返し伝えられたという。

委員の一人は『四条件を審査したら成立するわけがないと委員全員が分かっていたのではないか』との見方を示し、『通常ならある程度練った案を申請するのに、(文科省は)加計学園のひどい未成熟な計画を丸投げしてきた』と打ち明けた。」と報道しています。

このように「加計ありき」により、閣議決定した獣医学部新設の「4条件」さえも、加計学園獣医学部の新設の審査の対象から除外する圧力があつたことを示しています。

前川氏も、「加計学園獣医学部は、国家戦略特区で特例を認めるような代物ではなかった。本来設置認可すべきでなかったものを認可してしまった」(サンデー毎日2017.11.21)と述べています。

東京新聞(2017年12月8日)→

獣医学部新設の流れ

愛媛県 今治市
↓ 提案(2015年6月)
国
↓ 選定(17年1月)
加計学園
↓ 申請(3月)
文科相
↓ 諮問(4月)
設置審
判断保留(8月)
新設認める答申(11月9日)
↓ 文科相
認可(11月14日)
18年4月開校

「加計審査で圧力」証言

座長に訴訟リスクあると言われた

学校法人「加計学園」(岡山市)の獣医学部の設置認可を巡り、審査した文部科学省の大学設置・学校法人審議会(設置審)の複数の委員が七日、本紙の取材に「主査の委員(設置審の座長)から訴訟リスクがあると告げられ、圧力を感じた」と証言した。国家戦略特区認定の四条件を満たしていないとの考えも明らかにし、一人は「設置審にかかったことで認可への道筋は付いていた」とも述べた。

核心・国会審議を検証⑥設置審委員の証言詳細⑥面 (井上圭子、中沢誠、清水祐樹)

委員 4条件達成否定

獣医学部新設の4条件	状況
1 既存の獣医師養成でない構想が具体化する	否
2 ライフサイエンスなど獣医師が新たな分野の具体的な需要が明らかになる	否
3 既存の大学・学部では対応困難	否
4 近年の獣医師需要動向も考慮しつつ、全国的見地から検討を行う	否

本紙は主査に大学を通じて取材を申し込んだが、回答を得られなかった。文科省は「個別の委員の発言は明かせない」としている。「認可ありき」をうかがわせる証言が明るみに出たことで、認可判断の妥当性が揺らいでいる。

加計学園の獣医学部は、四月から設置審で認可の是非を審査。八月に判断保留

大学設置・学校法人審議会 文部科学省の諮問機関 既存大学への新学部設置や新大学開校の際に可否の審査を行う。大学教授らがカリキュラムの妥当性、教員の質や人となり、十一月に設置を「可」とする答申をした。審査に関わった委員の一人によると、十一月五日の最終判断の会議で、主査が「もついろんな建物が建っている段階で(答申を)延ばし延ばしにしている」と(学園側から)訴えられたら勝てない」と告げたといい、この委員は「絶対に認可しろ」という圧力を感じた

Q 4 審査委員が、文科省側から「圧力」を感じていたと報道されています。それはどのようなことでしょうか？

A 審査委員 文科省の「圧力」を感じたと証言！

東京新聞(12月8日・前頁新聞参照)は、『「加計審査で圧力」証言「座長に訴訟リスクあると言われた」との見出しを付け、加計学園の獣医学部の設置認可を巡り、「審査した文部科学省の大学設置・学校法人審議会(設置審)の複数の委員が、本紙の取材に『主査の委員(設置審の座長)から訴訟リスクがあると告げられ、圧力を感じた』と証言した。国家戦略特区認定の四条件を満たしていないとの考えも明らかにし、一人は『設置審にかかったことで認可への道筋は付いていた』とも述べた」、審査に関わった複数の委員の一人が、「認可された加計学園の計画でも国家戦略特区認定の条件を満たしているとは思わない」、「今思えば反対意見を言えばよかったという反省はある」と述べています。この議事要旨は、公開対象から外されています。

このように設置審は、「加計ありき」で審査が進められ、「行政が歪められた」こと、つまり、安倍首相による国政私物化を示しています。

新聞の見出しより→



議事要旨
公開せず

加計審査で
圧力

加計
「丁寧に説明」
どこへ

認可
「忸怩たる
思っている

安倍首相は「加計ありき」疑惑に 誠実な説明責任があります

共同通信社が実施した世論調査(愛媛新聞2017年9月4日)では、「学校法人『加計学園』の獣医学部新設を巡り、安倍晋三首相の友人が法人の理事長だから優遇されたとの疑念が指摘されていますが、政府は適切な手続きだったと説明しています。あなたは、政府の説明に納得できますか」との設問に、77.8%の人々が「納得できない」と回答しています。

安倍首相は、昭恵夫人や加計学園理事長を国会証人として、「政府の説明に納得できない」との声に誠実に対応する責任があります。

今治市の「加計ありき」疑惑

Q5 今治市は、加計学園へ132億円もの補助金などを支出することになり、市の財政負担が増えますが大丈夫なんでしょうか？

加計学園が経営する「千葉科学大学」が銚子市にあります。銚子市は千葉科学大学へ、土地の無償貸与と補助金約70億円を提供しました。銚子市は大学誘致の経済効果は69億円、財政効果79億円と算出していましたが、開学10年後の2014年に市が試算した経済効果は約21億円（▲48億円）、財政効果は約14億円（▲65億円）にとどまっています。銚子市は千葉科学大学（2004年）と市民病院（2010年）への支出による財政の悪化が2004年以降 将来負担比率が100%を超え、大きな財政負担を伴い、市民サービスに弊害が出ています。葬祭場の使用料金が6千円から1万2千円と2倍になったり、ゴミ袋の値段が1.5倍となるなど、住民負担を生んでいます。同じ道を今治市がたどっているとは考えられませんか？（民間委託による人件費の歳出削減や歳入確保などを財政効果といわれている。ニュースサイトBUZZAP! <http://buzzap.jp/news/20170616-choshi-kake/> を参照）

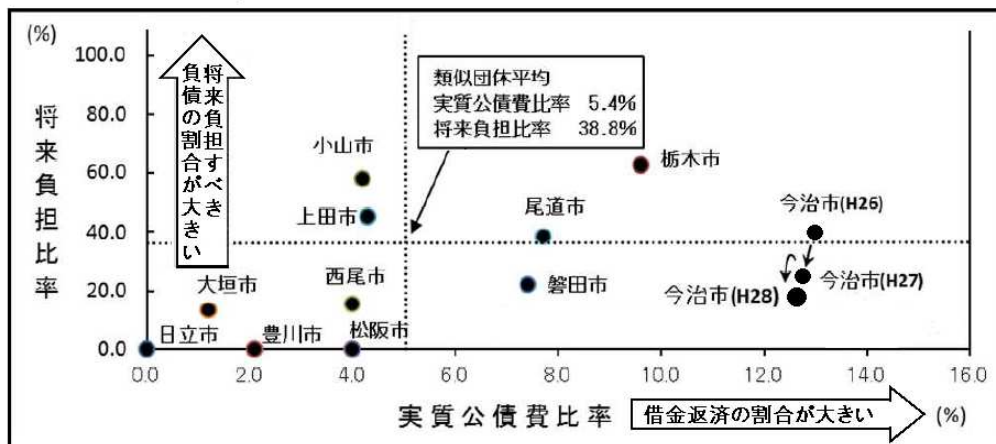
A 今治市の借金返済比率（公債費負担比率）が20%（危険水域）を突破！

今治市は多額の借金（約1千億円の地方債）を抱えており、財政力指数は、6年間悪化しています。その中で加計学園への土地無償譲渡36億7500万円、補助金交付決定金額96億円、合計132億7500万円（今治市民一人当たりの負担額は約8万3000円）もの巨額を投入することは、余りにも危険です。

今治市の財政指数の状況 2016年（平成28年） 今治市監査委員作成より

区 分	今 治 市		類似団体	説 明
	平成28年度	平成27年度	平成27年度	
財政力指数	0.57	0.57	0.79	財政力を判断する指標で、1に近く、1を超えるほど財源に余裕があるとされている。
実質収支比率	8.9%	8.7%	6.1%	実質収支の水準を表す指標で、おおむね3～5%程度が望ましいとされている。
経常収支比率	91.9%	89.2%	87.5%	財政構造の弾力性を判断する比率で、おおむね70～80%が適正水準とされ、それ以下が通常望ましい。
公債費負担比率	21.0%	19.6%	13.7%	比率が高いほど財政構造の硬直化を示し、一般的には15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされている。
義務的経費比率	49.6%	48.0%	45.5%	義務的経費は、非弾力的な性格の強い経費で、この比率が高いほど財政構造が硬直化しているといえる。

今治市の公債負担比率は、2016年度に危険ラインの20%を突破して21%となり、財政破綻の危険水域に足を踏み入れています。その財政負担は、当然ながら市民生活に降りかかり、小中学校の給食無料化は財源を理由に却下され、台風17号の豪雨災害の復旧も遅々という現状に既に現れています。



将来負担比率…債務が財政規模(自治体が自由に使えるお金)の何倍かを示す指標で、将来負担の見込みを表す。実質公債費比率…自治体の債務の今年の返済額の大きさを、過去3年の平均で示す。

Q 6 加計学園の建築費の水増し疑惑がささやかれています。

その実体はどうなっているのでしょうか？

A 建築費水増し疑惑は晴れていない！

工事費用の192億円の建設工事費のうち、施設費用は148億円余で、工事の坪単価は150万円の超高額です。設備費も一括で41億7498万円ですが、高額にもかかわらずその内容は不明です。言い換えればこの時点まで今治市は建築費については加計学園の言い値しか根拠はなく、広報いまばりの80万円、126万円も今治市が算出したものではなく、8月23日の加計学園作成の「報道資料」の数字、そのものに過ぎません。計算できる資料を持っていないのですから計算などはできないのです。しかも、建設の設計監理業者は、加計学園の身内とされる(株)SID創研と(株)大建設の設計共同体です。今治市の補助金交付の要綱では、「競争入札が原則」とされていますが、その詳細も不明です。

つまり、設計業者は事実上加計学園であるので、今治キャンパスの立地事業の入札は、「出来レース」の「相見積」で済ませた可能性があると指摘されています。このように違法に水増しされた可能性が高い校舎建設費用が私たちの財産である公金から支出されます。それは、補助金疑惑事件と言える出来事です。しかし、今治市及び加計学園は、市民に対して、信じがたいことですが、その建物の詳細な図面や設備の見積もり等の資料さえも公開していません。

(参照資料→ <https://drive.google.com/open?id=1IUAAaNnu7u21UzkiC7YqRoHPG0Q5A4NC>)

Q 7 危険度の高いBSL 3施設設置に断層が近いと聞きます。その対策はなされているのでしょうか？

A 危険なBSL 3施設は5階にあり、しかも断層に近い！

安倍首相は国家戦略特区を活用した獣医学部新設の理由について、「鳥インフルエンザ」等、国際的に高度な獣医師養成の必要性について触れています。これらの経緯や趣旨からみれば、将来は、大学研究機関としてBSL（バイオセーフティーレベル）3にはとどまらず、将来的にはBSL 4という非常に危険度の高い病原体まで扱っていく可能性があります。

BSL 3の鳥インフルエンザ対策も重要で危険なことですが、それ以上に、アフリカで猛威をふるった危険性の高いエボラ出血熱（コウモリなどが主な媒体）などを、新設の獣医学部の研究室で扱われる可能性も、将来的にはありえます。すでに長崎大学の周辺でも、地震などによって病原体が外部に拡散することなどを恐れて反対運動が起きています。

しかも、加計学園のこの危険な施設は5階と上部にあり、建設地近く、西方に断層が縦横に存在し、今治市・地震防災マップには、施設が建つ「いこいの丘」北側に震度6強を示す赤い帯がついています。

このように危険性の高い病原体を研究目的で扱う獣医学部の施設が、市民の暮らす住宅地の近くにあり、しかも断層に近いのです。

Q 8 今治市は、市民が知りたい情報を公開していないと聞きます。それは本当ですか？

A 市は、＜市民の命・健康＞よりも加計学園の利益を優先

今治市と加計学園の間で結ばれた契約書の「岡山理科大学今治キャンパスに関する基本協定書」（以下「基本協定書」）5条で、加計学園の校舎建設費用の2分の1以内を、今治市が補助金として支出することを定めています。このような重要な基本協定ですが、13条の加計学園の理事会の「議決書」さえ、加計学園の利益を優先し、開示を拒み、「理事会の議決」の内容を私たちは知る事ができません。

前記のQ 6の「A 建築費水増し疑惑は晴れていない！」の入札疑惑に関する資料、Q 7の「危険なBSL施設」に関する資料も開示されていません。

つまり、市は、市民の命・健康に関する資料さえも、一私学（一企業）である加計学園の利益を優先し、私たちにこれらの資料（公文書）の開示を拒んでいます。

Q 9 市民の宝である野間馬（文化財）を学生実習に使わせると聞きました。それは本当ですか？

A 文化財を所管する教育委員会へ許可手続きも行っていない

2017年1月の加計学園の応募資料の中には、「野間馬ハイランド（牧場）」について次のように書かれています。

「馬の行動学、繁殖学、予防・治療等に本学部が責任を持つことになる予定」「大動物、特に馬に触れる機会を持つ獣医大学は少ない、大動物飼育施設での家畜衛生や動物管理に関する体験実習を行う」「5年次に愛媛県農業共済組合や野間馬ハイランドに6課程を6週間ローテーション総合参加型臨床実習科目を設定」

このように、市民の宝である野間馬（文化財）を学生実習に使わせることになっていますが、これはあまりにも乱暴ではないでしょうか。

また、市長は、市の執行機関から独立している教育委員会に、文化財を使用するための許可を求めなければなりません、その手続きさえも行っていない。

獣医学部新設をめぐる経過の概要

- 2015年4月 首相官邸に今治市職員訪問。首相秘書官・加計幹部・県職員同席
- 6月 4条件が満たされれば、特区による獣医学部新設の検討を認める
「日本再興戦略」を閣議決定
- 2016年1月 愛媛県今治市を国家戦略特区に指定
- 11月 国家戦略特区諮問会議で獣医学部の新設を認める方針を決定
- 2017年1月 特区諮問会議で加計学園が事業者認められる
- 3月 学園が獣医学部の新設計画を文科省に提出
- 5月 「総理のご意向」などと記された文書の存在が発覚
- 同19日 文科省が「文書の存在は確認できなかった」と発表
- 同25日 前川喜平前文科事務次官が記者会見で「文書は存在」と証言
- 6月15日 文科省が再調査で文書の存在確認と発表
- 8月 9日 認可判断を保留
- 8月25日 大学設置審が新設の判断を保留
- 11月9日 大学設置審が獣医学部新設を認める答申を出す
- 同14日 文科相、獣医学部新設を認可

前川喜平氏講演会実行委員会

連絡先 090-9773-0249 (松田) 090-8986-1157 (金丸)
〒794-0027 今治市南大門町 2-1-23 まちづくりセンター
〒799-1607 今治市朝倉上甲 2442-92
資料等を掲載 → <http://siminnet.starfree.jp/index.html>